

社会福祉法人ばなな 経営方針

『理念』

- 一、障がいがある人の自立を支援し、誰もが、「ふつうの暮らしを幸せに」できる豊かな人生の支援をします。
- 二、地域住民及び関係機関を巻き込み、共に協力し、豊かな福祉づくりを目指します。
- 三、自由な発想の基、みんなが幸せで前向きに働ける豊かな組織づくりを目指します。

この理念の下、常に人権感覚を磨き続け、一人一人の利用者に光を当てていくことを大前提に下記の七つの経営方針に沿って支援を行っていく。

- 一、より良い、サービスを提供すべく、一人一人の利用者の生活状況及び家族構成、ADLやQOLを細かく把握し、施設職員間で共有していく。
- 二、福祉施設職員として、最も重要な職務である、利用者ニーズの把握を徹底的に追及し、施設職員間で検討、共有後に利用者のADL・QOL向上につながるサービスを提供していく。
- 三、日々、違う現場では、利用者が今、何を求めているのか、どうして欲しいのかを利用者本人が発する、わずかなサインを見逃すことがないように、常にコミュニケーションを図り続けていく。
- 四、質の高いサービスを提供していくためにも、様々な状況や環境の変化によって、多様化する利用者のニーズをいかなる場合も、主観的にならず、利用者のニーズを受容していく。また、職員個人の考察や観点に陥ることなく、関係する機関や組織とも緊密に連携を図り、『利用者の意思と可能性を否定することなく』それぞれに合ったサービスを提供していく。
- 五、昭和55年に、養護学校卒業後の親が集まり、「わが子に、働く場を！！」「働いて、税金を払う！！」との思いで、親の会を結成。法人設立のこの原点をいつの時代になろうとも忘れずに施設経営に努めていく。そして、利用者を支えてこられた、家族の思いや環境にも心を砕き、共感し、「支援者の先輩」という敬意を絶対に忘れずに、利用者及び家族の支援にも努めていく。
- 六、法人が経営する施設には、利用者のことを一番に考え続ける職員を雇用・配置し、さらには、学習会や研修会へも積極的に参加をし、実践を積み重ね、マンパワーの質の向上に努め、職員自身が生涯学習に努めていく。
- 七、施設職員は利用者に対して、『安全と安心』を常に意識して、業務を行っていくことは当然とし、意識の中では、『人は誰でも必ず、ミスをする』ことも冷静に意識をしていく。この二つを併せ持って、事故発生時の対処方法や未然に防止できる事故の対策などをマニュアル化し、全職員間で、周知し、共有をしていく。